

再評価結果（平成19年度事業継続箇所）

担当課：九州地方整備局都市・住宅整備課
担当課長名：角田 陽介

事業名 よしむらどおりせん しんおどのはし 吉村通線（新小戸之橋）外1線	事業区分 街路	事業主体 宮崎市
起終点 自：宮崎県宮崎市 城ヶ崎4丁目 至：宮崎県宮崎市 高洲町	延長 1.09km	
事業概要 ：都市計画道路・吉村通線（新小戸之橋）は宮崎市の城ヶ崎地区と高洲地区を南北に接続する路線（橋梁）で、交通渋滞の激しい大淀川橋梁群の交通の分散化を目的としている。また内環状線を補完する道路として位置付けられている。		
H 8年度事業化	S 21年度都市計画決定 （H14年度変更）	H 11年度用地着手 H 13年度工事着手
全体事業費 ：143億円 事業進捗率 ：84% 供用済延長 ：0km		
計画交通量 ：6,400台/日		
費用便益分析結果 B / C : (事業全体) 1.0 (残事業) 7.3	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 22/158 億円 (事業費：22/158億円 維持管理費：0.15/ 0.15 億円)	総便益 ：(残事業)/(事業全体) 161/161 億円 (走行時間短縮便益：157/157 億円 走行費用減少便益：3.2/3.2 億円 交通事故減少便益：1.2/1.2 億円)
基準年 ：平成18年		
事業の効果等 円滑なモビリティの確保（旅行速度の改善が見込まれる） 災害への備え（広域避難路の整備促進） 安全な生活環境の確保（歩道の設置による交通の安全性の向上が見込まれる。）		
関係する地方公共団体等の意見 市内の内環状線を補完する路線であるため、早期の完成が望まれている		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 郊外で大規模店舗など商業施設の立地があったため、周辺道路の交通量が増加し、付近の交差点において渋滞を引き起こしている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 用地補償については、2件残っているが18年度末までの取得を目指し交渉を行っている。 工事については河川部の橋梁本体が連結している。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 関係地権者との用地交渉、工場などの補償移転に不測の日数を要した。 今後は用地取得を進めるとともに、橋面工や陸上部の高架橋の整備を進めていく。		
施設の構造や工法の変更等 上部工の仮設工法の変更、発生土の現場内流用などによりコスト縮減を図る。		
対応方針 ：事業継続		
対応方針決定の理由 以上の理由を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>吉村通線（新小戸之橋）外1線 (起) 宮崎市城ヶ崎 L=1,093m (終) 宮崎市高洲町</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>宮崎県 当該箇所</p> </div> </div>		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。